

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施 設 名	第一生命ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	11,678	(千円)
	公 演 事 業	9,657 (千円)
	人 材 養 成 事 業	342 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,679 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ロビーでよちよちコンサート	R3. 6. 22/R3. 10. 18/R4. 3. 2	0～1 歳児と妊婦さんのためのロビーコンサート（各回 15 名限定） 出演：とことんトン（打楽器）他	目標値	540
		第一生命ホールロビー		実績値	448
2	音楽と絵本コンサート	R3. 9. 20（中止）※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止（出演者が感染）。	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	- ※
3	クリスマス・オーケストラ・コンサート	R3. 12. 12	親子でクリスマスの曲から交響曲までオーケストラで楽しむ 出演：ARCUS（アルクス）	目標値	980
		第一生命ホール		実績値	1,188
4	子育て支援コンサート	R4. 3. 5	親子で音楽と共に絵本「5ひきのすてきなねずみ」を楽しむ 出演：浜まゆみ 田村緑、他	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	559
5	645 コンサート	R3. 9. 15	ホール近隣オフィス勤務者向け、オペラとミュージカルからの名曲 出演：小南満佑子（ソプラノ）他	目標値	320
		第一生命ホール		実績値	317
6	トリトン晴れた海のオーケストラ	R3. 6. 5/R3. 11. 27	ベートーヴェン・チクルスV、他 出演：トリトン晴れた海のオーケストラ（矢部達哉、他）	目標値	1,200
		第一生命ホール		実績値	1,028
7	室内楽の魅力	R3. 10. 9（中止）※ /R3. 12. 4	10 月バボラーク・アンサンブルはコロナのため演者来日できず中止、12 月はピアノ小山実稚恵、他	目標値	1,090
		第一生命ホール		実績値	560※
8	室内楽ホール de オペラ 林美智子の「ドン・ジョヴァンニ」	R4. 3. 19/R4. 3. 21	室内楽ホールのサイズ・音響を活かしたオリジナル台本のオペラ 出演：林美智子 黒田博、他	目標値	920
		第一生命ホール		実績値	734

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アウトリーチセミナー	R3. 7. 6~R4. 3. 23	オープンハウス前3日間の集中リハ ーサルを経たオープンハウスでのア ウトリーチ発表。 中央区立小学校他での4年生対象ア ウトリーチ実践並びにロビーコンサ ート(最終成果発表会) 出演:(講師)松原勝也、(受講生) 森麻祐子 小松あかね 丹野陽介	目標値	アウトリーチ 300名 オープンハウス 80名 ロビーコンサート 50名
		第一生命ホール、中央区小学校、他		実績値	アウトリーチ 219名 オープンハウス 322名 ロビーコンサート 44名
2	サポーター研修	R3. 11. 6/R4. 1. 29※	コロナ禍のためサポーター登録会及 び接遇研修は中止、交流会のみ左記 日程で実施(参加者延べ12人)。	目標値	15名
		Zoom ミーティング		実績値	- ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンハウス 2021	R3. 7. 10	予約制の無料コンサートなどを実施 出演：とことんトン！（打楽器トリオ）、松原勝也 森麻祐子他	目標値	500名
		第一生命ホール		実績値	649名
2	アウトリーチ	R3. 6. 25～R4. 3. 12※	小学校の音楽授業などへ出張してのコンサート（アウトリーチ） 出演：浜まゆみ/TANBRASS/バズ・ファイブ/田村緑/日本音楽集団、他 ※コロナ禍のため一部学校・医療施設・老人ホームは未実施あり	目標値	小学生1400名、幼稚園保育園児500名、高校生50名、福祉施設通所者等300名、医療機関30名
		中央区、江東区小学校 他		実績値	小学生1864名、幼稚園保育園児562名、高校生37名、福祉施設通所者61名、医療機関0名 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当団体のビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。地域特性としては、東京臨海都市の人口急増地域であり、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著であることから、まちづくりが急務の課題となっている。このミッションと地域特性に基づき、次のような事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「公演事業」では、第一生命保険株式会社の「ライフサイクル」の考え方に基づき、0歳からホールに入場できるような年齢別にステップを踏んでシリーズを組み立て、子どもからオフィスワーカー、主婦・シニア層まで、幅広い層を対象とした多様な公演を提供した。またホール専属、地域の名（晴海）を冠した「トリトン晴れた海のオーケストラ」を創設し、質の高い公演を実施している。ホールの音響特性を活かした室内楽やオペラもシリーズ化して行っており、関連企画として、中央区と連携した講座を行い、地域住民に理解を深めて鑑賞してもらう工夫を行った。</li><li>・「人材養成事業」では、「アウトリーチセミナー」による若手演奏家育成と、地域文化リーダーであるサポーター（ボランティア）育成のための事業を実施した。</li><li>・「普及啓発事業」では、ホール近隣の小学校、幼稚園・保育園、福祉施設等でアウトリーチを実施するとともに、地域で増加する新規住民にホールを身近に感じてもらうオープンハウス 2021 を実施した。</li></ul> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の公演・アウトリーチの延期・中止を余儀なくされたが、公演・アウトリーチともに感染拡大予防のガイドラインを遵守し、コロナ禍の中でも企画に工夫を凝らして音楽をお届けすることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>●文化的意義：公演事業（主催公演）は、すべて当団体のオリジナル企画、制作である。「音楽の友」誌などで高く評価され、NHK でドキュメンタリー番組が放送されるなど、評価が高まるホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ」を始め、ホールの特性を活かした室内楽シリーズ、親子で楽しめる「音楽と絵本コンサート」等、対象者に応じた質の高い公演を提供している。人材養成事業では、地域の文化発展に貢献する若手演奏家や地域文化リーダー（ボランティア）を育成。普及啓発事業では、公演事業にも出演する演奏家と、人材養成事業で育成した演奏家が中心となって、ホールに来られない方へアウトリーチを実施し、質の高い音楽を提供している。</li><li>●社会的意義：公演事業では、対象者別の公演実施により、あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤構築の一翼を担っている。人材養成事業では、若手演奏家の発掘・育成、サポーター（ボランティア）やアートマネジメントに関心ある学生インターンの文化芸術活動への参加機会を提供。普及啓発事業では、ホールに来られない人のもとへ出向くことで、音楽の力で教育・福祉・地域振興等社会課題の解決に役立っている。</li><li>●経済的意義：年齢別の「子どもといっしょにクラシック」シリーズを展開、その他の公演では 25 歳以下を対象とした U25 券を設定するなど、質の高い音楽を青少年が低廉な価格で鑑賞できる公演事業を行うと同時に、普及啓発事業として地域で（特に中央区では区立小学校全校で）小学 4 年生を対象としたアウトリーチを継続。ほかにも保育園、幼稚園、認定こども園、発達支援センターなどと連携したアウトリーチを継続実施することで地域住民がホール内外で質の高い音楽に触れたり、サポーターとして交流したりする機会を生み出している。また、若手演奏家への演奏機会提供にもつながっている。</li></ul>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### ●公演事業指標達成状況

##### 1. 公演毎のチケット販売数

事業番号1: 476枚(目標540枚) 事業番号2: 中止(延期)(目標480枚) 事業番号3: 1,142枚(目標960枚) 事業番号4: 541枚(目標480枚) 事業番号5: 295枚(目標300枚) 事業番号6: 1,080枚(目標1,200枚) 事業番号7: 480枚(目標480枚/中止公演は除く) 事業番号8: 622枚(目標880枚)

事業合計販売枚数: 4,636枚(目標: 5,890枚、中止公演を除くと目標4,840枚)

※コロナによる公演中止や客席収容率の制限などにより目標未達であったが、ファミリー向け公演はいずれも完売となるなど健闘した。

##### 2. 事業番号6・7・8におけるU25券(25歳以下対象)売上枚数

事業番号6: 101枚(目標100枚) 事業番号7: 38枚(目標50枚/中止公演は除く) 事業番号8: 60枚(目標80枚) 合計U25販売枚数: 199枚(目標230枚/中止公演は除く)

※コロナによる公演中止や客席収容率の制限などにより目標未達となった。

3. 公演共通アンケートによる満足度(事業番号5・6・7・8):「本日の公演はいかがでしたか?」(5段階評価)に対する「大変満足」「満足」の割合が、事業5で88.9%(目標97%)、事業6で100%(目標97%)、事業7で100%(目標97%)、事業8で92.3%(目標97%)であった。全体的に満足度の高い公演を制作できた。

4. チケットデスク顧客分析による購入者に対するリピーター割合: 62%(目標: 65%)となった(注:実績報告時では65%であったが、その後確定数値ベースで集計した結果62%となった)。

#### ●人材養成事業指標達成状況

1. セミナー生によるアウトリーチ実施回数: 小学校で3回(阪本小、中央小、京橋築地小)実施、目標(3回)達成。

2. セミナー修了生によるアウトリーチ実施回数: 10回(日本橋幼稚園、中央区立発達支援センター、豊洲保育園、晴海こども園、晴海幼稚園、清瀬市教育委員会、晴海保育園、文化教養学園、中央区民カレッジ卒業式、ロビーコンサート)実施(目標7回)。様々な対象者に向けたアウトリーチの機会を提供することができた。

##### 3. 小学生への共通アンケートによる満足度

質問「本日のコンサートはどうでしたか」に対する答え「とてもよかった」と「よかった」の割合97%(目標95%)  
質問「コンサートを聞いて今までより音楽が好きになりましたか」に対する答え「とても好きになった」「好きになった」の割合89%(目標87%)  
質問「もっとコンサートに行ってみたいと思いましたか」に対する答え「とても思った」「すこし思った」の割合87.3%(目標85%)となり、アウトリーチの効果を実感している。

4. 外部講師による接遇研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

#### ●普及啓発事業指標達成状況

1. アウトリーチ実施回数: 計27回 新型コロナウイルスの影響により目標(32回)に届かなかった。

アウトリーチ実施(小学校19回、幼稚園・保育園・認定こども園5回、高校1回・福祉施設2回) 計27回

##### 2. オープンハウス来場者数等

(ア) 来場者数: 649人(目標500人) (イ) アンケートによる初めてホールに来た割合: 73.5%(目標55%)

(ウ) アンケートによる地域住民割合: 81.2%(目標80%)

3. 小学生への共通アンケートによる満足度: 上記3. と同じく、目標を達成できた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### ●事業期間

・事業期間は、4月1日から3月31日までの事業（決算）年度単位としており、適切である。令和3年度は、引続き新型コロナウイルス感染症の影響があったため、一部の公演が中止・延期等の変更を余儀なくされるとともに、アウトリーチについても、複数の受け入れ先で実施時期の変更や実施見送りがあったが、それ以外の公演、アウトリーチについては計画通りに実施できた。人材育成事業に関しては、若手演奏家対象の「アウトリーチセミナー」は計画通り、サポーター接遇研修（外部講師による）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホールに集まって実施することは難しいと判断し中止としたが、オンライン会議システムを使っのサポーター交流会を実施した（2回）。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### ●収支予算・実績（各事業毎）

（単位：千円）

	公演事業			人材養成事業			普及啓発事業		
	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異
収入	21,571	17,269	-4,302	0	0	0	640	800	160
支出	33,241	26,667	-6,574	838	701	-137	3,951	3,892	-59
収支	-11,670	-9,398	2,272	-838	-701	137	-3,311	-3,092	219

##### 【公演事業】

・新型コロナウイルス感染症の影響で、一部公演が中止や延期となったことで、収支ともに予算を下回った。公演は実施できても収容率の制限でチケット販売数が減少した。ただ、「子どもといっしょにクラシック」シリーズは近隣在住の親子で発売早々に完売となり、広告宣伝費を当初予定していたより抑えることができた。

##### 【人材養成事業】

・アウトリーチセミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった小学校もあったが、年度内に3回実施することができ（目標3回）、計画通りだった。サポーター接遇研修（外部講師による）は中止としたが、コンサートやアウトリーチでは、人数を限定してサポーターにも参加してもらい活動することができた。

##### 【普及啓発事業】

・オープンハウスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度は無観客ライブ配信としたが、R3年度は有観客、全席指定（無料）でステージでの公演を実施。プロジェクトサポーターと定期的な会議で運営を検討し、撮影・編集したバックステージツアー動画をスクリーンに投影するなど、工夫を凝らして実施。また、アウトリーチについては、コロナ禍が続く中であつたが、受け入れ先（学校等）と緊密に連携をとって、ほぼ予定通りの活動が実施できた。その結果、収支ともにほぼ予算並みの実績であった。

## 4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

主催事業の企画立案から実施、振り返りまでを、当団体の制作スタッフが企画毎にメインとなる演奏家と共に  
行っており、多彩な事業を展開している。特に創造性が認められる主な取り組みは以下のとおり。

#### (1) ホール公演事業

##### ●「子どもといっしょにクラシック」シリーズ

・14年前の現プロデューサー田中玲子の就任以来、ファミリー人口が増える地域のニーズに応える「子どもといっしょにクラシック」シリーズを拡充し続けている。12年前スタートの「ロビーでよちよちコンサート」は0歳から3歳児向けで、乳幼児の集中力に視察に訪れる関係者が一様に驚く先駆性を持ったプログラム。R3年度は、コロナ対策のため、よちよちしない「0～1歳児と妊婦さんのためのコンサート」として、ロビーで各回親子15組限定対象に実施。4歳以上入場可の公演は年に3回（コロナによる公演中止がありR3年度は2回）用意、「クリスマス・オーケストラ・コンサート」はコロナ前に実施していた子どもたちがステージで聴く・歌う体験コーナーの代わりに、R2・3年度は事前に子供たちの絵画を公募しスクリーンに投影、演奏とコラボレーションするなど工夫を凝らして実施した。R3年度は絵画の募集に133点の作品が集まるなど好評だった。「子育て支援コンサート」は、コロナ禍前のように、第一部で親子別々での音楽体験は難しかったが、親子がいっしょにホールで楽しめる「音楽と絵本コンサート」を実施。以上のような年齢別シリーズを継続することで、地域の子どもたちが0歳からホールに来る流れができつつあることがチケット購入者の顧客分析からも分かる。また、公演では人材育成事業の「アウトリーチセミナー」修了生の若手演奏家も活躍している。

●プロデューサーがH27年に街の象徴として立ち上げた第一生命ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ」（コンサートマスター矢部達哉）は、聴衆のみならず音楽専門誌等でも高い評価を受けている。特に2021年11月の公演ではベートーヴェン・チクルスの集大成として「第九」を演奏。NHKによりドキュメンタリー番組「指揮者のいないオーケストラ～第九に挑む」としてBSプレミアムで、また「第九」演奏全編がEテレ「クラシック音楽館」で放映された。またキングレコードから発売された「第九」ライブCDは「レコード芸術」誌で「特選盤」となるなど知名度も高まり、地域が誇れるオーケストラとして発展している。

●H30年度から継続するピアニスト小山実稚恵による室内楽シリーズでは、中央区民カレッジと連携し、講座と鑑賞を組み合わせ、ホール周辺のクラシックファンの裾野拡大に取り組んだ。

●H29年度開始の「室内楽ホール de オペラ」の林美智子プロデュースシリーズでは、書下ろし台本とホールに合わせた演出、ホール舞台スタッフとの共同で、ホールの音響、舞台を活かしたオリジナル作品を創造している。

#### (2) 人材養成事業

●ヴァイオリニスト松原勝也が講師としてプロデュースする若手演奏家のための「アウトリーチセミナー」は、アウトリーチに特化した先駆性あるセミナーで、11年継続。小学生が高い集中力を持って弦楽四重奏曲を聴くことができるプログラムを毎年新たに創造、修了生がその後アウトリーチで活躍するという流れができている。

#### (3) 普及啓発事業

●小学校アウトリーチでは、音楽教諭に学習進捗状況を確認の上、演奏家とプログラムを制作。10年以上経験ある当団体スタッフが担当となり事前リハーサルに参加し、内容の向上をはかっている。コロナ禍の中、アウトリーチ実施のためのガイドラインを策定、中央区教育委員会とも連携し、安全安心な運営ができるよう努めた。ウェブサイトでアウトリーチの詳しい内容についてレポートを掲載し、ノウハウを提供、発信している。

●ホール開館以来毎年実施しているホール無料開放イベント「オープンハウス」について、R3年度はコロナ禍のため、全席指定（無料）で2回の公演形式で実施、2階とも受付開始直後に定員になるなど、大変好評であった。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ・オープンハウスの開催

年に1回ホールを無料で開放する「オープンハウス」をH13年のホールオープン時から開催、ホール近隣で増え続ける新規住民にホールを知ってもらい、気軽に音楽を楽しんでもらうイベントとして定着している。コロナ禍前には、地域のサポーター（ボランティア）がプロジェクトサポーターとして関わり、数か月かけてスタッフと運営を準備、当日は100名近いサポーターをまとめていくなど、地域の人材育成と音楽を通じたまちづくりに寄与してきた。R3年度はコロナ禍のため、全席指定（要事前予約・無料）のホール公演を2回実施。プロジェクトサポーターと数か月のオンライン会議で企画を練り、サポーターが事前に撮影・編集したバックステージツアーの様子を公演前にスクリーンに投影するなどの工夫をし、地域住民の絆づくりの一助とすることができた。

### ・トリトン晴れた海のオーケストラ

第一生命ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ」はH27年に立ち上げて以来、コンサートマスター矢部達哉を中心に指揮者なしのオーケストラとして、ホール公演やアウトリーチ、公開リハーサルなど、毎年地域に根差した活動を重ね、聴衆からも音楽評論家からも高い評価を得ている。R3年11月の「第九」公演はコロナ禍の中であったがチケットは完売、雑誌「音楽の友」2月号の「コンサート・ベストテン」でベートーヴェン研究の第一人者・平野昭氏により第1位に選出され「《第九》の真髄に迫った圧倒的な名演」と高い評価を得た。アンケートでも「やっとやっと聴くことができました。合唱付きなのでコロナ禍でいつできることかとずっと案じておりました。感染者が減った時に満員のお客様で開催されて本当に嬉しかった。」「小編成オケでの第九を堪能できました。「指揮者がいないのにすごい」ではなく「普通の演奏との比較でもすごい」という印象でした。」など大変好評であった。「第九」への挑戦に対しては2年にわたりNHKの取材が入り、ドキュメンタリーと演奏がBSプレミアム及びEテレ「クラシック音楽館」で放映、またキングレコードからライブCDが発売された。

### ・「子どもといっしょにクラシック」シリーズ

0歳以上対象、また4歳以上対象公演は、演奏家とオリジナル企画を制作しているが、ここ数年完売が続いており、ファミリー層が増加している地域のニーズが高いことが伺える。地域顧客（中央区・江東区）の来場割合は、ロビーでよちよちコンサート・クリスマスコンサート・子育て支援コンサート合わせて85%であり、地域の文化芸術の発展につながっている。

### ・中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

7年前から継続実施している中央区民カレッジは、講義、公演鑑賞を組み合わせたプログラムとしている。過去の講座参加をきっかけに、当団体の活動を知りサポーターに登録した方もいる。

### ・地域のボランティア（サポーター）受け入れ

毎年約70名の登録サポーターと共に、ホール事業、コミュニティ事業に関わる活動をしている。大学生、大学院生でアウトリーチを学びたいというサポーターもおり、見学や勉強会の機会を提供しているが、過去には小学生の時に当団体のアウトリーチを実際に体験したという大学院生もいた。R3年度はサポーター一接遇研修はできなかったが、その中でもZOOM交流会を2回開催しコミュニケーションを取る中で、コロナ禍での活動希望についてヒアリングを行い、今後の活動に活かすよう努めた。

・顧客アンケートを分析して活用。R3年度主催公演における顧客アンケートでは満足度97.8%を獲得した。

・広報誌「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分配布、また中央区での新聞折込みも実施し、保護者や地域住民への告知を行った。実際に「トリトンアーツ通信」を見て子ども向けの公演を購入したり、クリスマスコンサートの絵画公募へ応募したという例は多い。また、小学校で行ったアウトリーチのレポートなども写真付きで掲載している。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

・組織運営として、すべての事業活動は「事業計画」に基づいて行われ、「理事会」（年4回開催）、企画分科会（月1回開催）等において、計画立案及び活動報告と振返りを実施し次の事業に活かしている。特に企画分科会では各公演・コミュニティ活動について、運営面・広報宣伝・アンケート分析等による活動全般の振返りを行い、次につなげている。また、外部の有識者からなる「評価委員会」では活動を第三者視点で評価・提言頂き、毎年の「評価報告書」にまとめるとともに、評価の内容、提言を事業活動にフィードバックしている。

Plan（理事会）→Do（企画分科会）→Check（評価委員会）→Action（理事会・企画分科会）という流れがしっかりと確立されている。

・人事戦略として、正規職員雇用率は80%。第一生命保険株式会社からの出向者以外は全員、プロバーの制作スタッフであり、公演事業と普及啓発事業、両方を担当することで双方の事業に相乗効果をあげながら取り組めるようにし、実績によってアソシエイト・ディレクター、ディレクターへ昇給の仕組みがある。少人数体制につき体系だった研修が難しいため、各自のスキルアップを外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。正職員の平均勤続年数は、12年9か月であり、定着率が高く団体内でスキル、経験を積める制度となっている。

また、様々な属性のサポーター（ボランティア）69名が活動に参画できるメニューを用意している。令和3年度はコロナ禍のため接遇研修は中止したが、サポーターとの絆を維持・強化するための取組みとして、サポーター通信の発行による情報提供、ZOOMによるサポーター交流会の実施等を行った。

・安定的な収益基盤と財源をするため、下表のとおり個人会員・法人会員・寄付金・協賛金等、多様なファンドレイジングに取り組んでいる。R3年度は、寄付呼びかけキャンペーンを行い、公演でチラシを配布、また寄付決済システムを導入し、ウェブ上でクレジットカードによる寄付を受付ける仕組みを導入した。また、中止公演チケットを払い戻さずに、寄付してくださる方も引き続きいた。

区分		R1	R2	R3
個人会員	会費	7,360千円	7,050千円	6,720千円
	会員数	716名	682名	645名
法人会員	会費	23,800千円	23,400千円	22,800千円
	会員数	53社	55社	54社
個人寄付金	金額	2,429千円	3,847千円	2,565千円
法人寄付・協賛金	金額	51,604千円	50,979千円	54,229千円
助成金	金額	9,879千円	11,655千円	12,012千円

・上記の支援者には広報誌「トリトンアーツ通信」を年10回、レターとともに送付している。また年間の事業報告書、評価報告書をウェブで公開することと併せ、法人会員に送付している。大口法人寄付者である第一生命保険株式会社には、定期的に活動状況を詳細に報告している。

・劇場・音楽堂等間のネットワーク形成のため、東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場と4館連携「若手演奏家支援事業」として、一般のお客様向け演奏会を実施するとともに、他ホール担当者と様々な活動取組みについて情報交換会を実施している。

・教育機関とのネットワークとしては、田中プロデューサーがH28年より昭和音楽大学の非常勤講師としてアートマネジメントコースの必修授業を担当、また慶應義塾大学のアート・プロデュース講座でもゲストスピーカーとして授業を担当した。興味ある学生は毎年インターン、またはサポーターとして受入れており、R3年度も面談の上インターン1名を受入れた他、2名の学生がサポーター登録をして活動した。